

全学アクションプラン(平成27年度版)

N°2020Plan の 課題			アクションプラン(H31年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
<b>I. 建学の精神と二松学舎憲章</b>											
1. 建学の精神	(1) 建学の精神とその現代的解釈の浸透	a. 建学の精神とその現代的解釈の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 菅原学長 松葉校長 長谷川校長 小町理事 土屋図書館長	◎総務・人事課 ◎広報課 ◎教務課 ◎入試課 ◎図書館 ◎高校事務室	◎広報運営委員会	教職員、学生・生徒が本学建学の精神を理解し、帰属意識(母校愛)を持っている。	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に関連した企画展・講演会等の戦略的な計画案の策定 ③二松学舎小史改訂のための委員会立ち上げと改訂案策定	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に関連した企画展・講演会の計画・実施 ③二松学舎小史改訂版の編集開始	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に関連した企画展・講演会の計画・実施 ③二松学舎小史改訂版の刊行	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に関連した企画展・講演会の計画・実施	①浸透策の継続実施 ②二松学舎や中洲に関連した企画展・講演会の計画・実施
		(2) 創立者の知名度向上	a. 創立者三島中洲の知名度向上	◎五十嵐常任理事 小町理事	◎広報課	◎広報運営委員会	創立者三島中洲の知名度が、本学関係者以外にも広く伝わり、社会的な評価を得ている。	①各種施策の効果検証、見直し ②知名度アップの方策を検討・実施	①各種施策の効果検証、見直し ②知名度アップの方策を検討・実施	①各種施策の効果検証、見直し ②知名度アップの方策を検討・実施	①各種施策の効果検証、見直し ②知名度アップの方策を検討・実施
2. 二松学舎憲章	(1) 二松学舎憲章の浸透	a. 二松学舎憲章の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎広報課 ◎大学改革推進課	◎広報運営委員会	「二松学舎憲章」が全てのステークホルダーに周知され、その理念の浸透が図られている。	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し	①学内外の催し等を利用した周知活動計画の実施 ②効果検証、見直し
3. 二松学舎史編纂事業と周年事業	(1) 編纂事業の推進と周年事業計画	a. 創立140周年記念事業	◎五十嵐常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎広報課	◎140周年記念事業準備委員会	創立140周年(H29)事業が成功裏に達成されている。	①記念事業の具体計画策定 ②事業理念・キャッチコピー、ロゴマーク決定 ③140周年記念事業特設サイト開設・公開	①記念事業の一部前倒し実施 ④記念式典実施概要作成 ⑤記念出版物の刊行準備開始 ⑥140周年記念募金開始	①創立140周年、記念事業の実施 ⑤記念出版物刊行 ⑥140周年記念募金継続実施	①記念事業の総括	
		b. 創立150周年を視野に入れた舎史編纂事業の推進	◎五十嵐常任理事 小町理事 土屋図書館長	◎広報課 ◎図書館	◎広報運営委員会	創立140周年(H29)での編纂事業の大綱発表を受け、舎史編纂所(仮称)が設置され、編纂事業がスタートしている。	①調査、資料収集の継続 ②資料収集のための広報実施 ③現存資料の整理・取りまとめ	①調査、資料収集の継続	①調査、資料収集の継続 ④舎史編纂所(仮称)の設置と計画大綱についての広報実施	①調査、資料収集の継続 ④舎史編纂所(仮称)の設置と計画大綱についての広報実施	①調査、資料収集の継続 ④舎史編纂所(仮称)の設置と計画大綱についての広報実施
<b>II. 大学・高校・中学の教育改革(共通)</b>											
1. 各設置学校間の連携強化	(1) 中高大一貫校化の体制整備	a. 中高大の連携強化 b. 高大接続の実質化 c. 両附属高で優秀な生徒の二松学舎大学への進学推奨 d. 大学で両附属高からの優秀な学生受け入れ e. 附属中・高を学生の教員養成実践の場として活用(学生による日常的な授業サポート等の実施) f. 「4・4・4制」学制改革への対応	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 松葉校長 長谷川校長	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎大学改革推進課 ◎入試課 ◎教務課 ◎附属高校 ◎柏中高	◎全学政策会議 ◎附属高校改革検討会議 ◎校長室会議	学生・生徒募集に係る連携だけでなく、教育課程についても連携が図られ、中高大10年間の教育によって、長期ビジョンに掲げる人材を輩出している。  H30年度大学入学生のうち 内部進学者： 両附属高校合わせ文学部70名、 国際政治経済学部20名	①高大接続と結び付けた優秀な生徒の受入実施 ②両附属高校からの入学生を対象とした入試制度改革と大学教育との接続策の検討 ③学習ボランティア学生の派遣 ④前年度の検討課題の改善策の提言まとめ	③学習ボランティア学生派遣の拡充 ④改善計画の検証・実行 ⑤両附属高校からの入学生を対象とした大学教育との接続策の策定	④改善計画の検証・実行 ⑤両附属高校からの入学生を対象とした大学教育との接続策の実施	④改善計画の検証・実行	④改善計画の検証・実行
		(2) 施設・設備の共同利用	a. (九段キャンパス)大学施設の一部を附属高と共同利用 b. (柏キャンパス)大学の教室・施設を附属高・附属柏中高での授業や運動でも利用	◎五十嵐常任理事 西畑常任理事 菅原学長 松葉校長 長谷川校長	◎総務・人事課 ◎柏事務課 ◎高校事務室	◎全学政策会議 ◎附属高校改革検討会議 ◎校長室会議	各設置学校間での施設・設備の共同利用に係るルールが策定され、効率的な利用が実現されている。	①附属柏高校の大学教室施設利用の継続実施 ②柏キャンパス共同利用ルールに基づいた利用の開始 ③共同利用のための規程整備検討	①附属柏高校の大学教室施設利用の継続実施 ③共同利用のための規程整備	①附属柏高校の大学教室施設利用の継続実施	①附属柏高校の大学教室施設利用の継続実施
<b>III. 二松学舎大学・大学院の教育改革</b>											
1. 大学(学部・大学院)のフレーム	(1) 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの浸透	a. 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく学生育成策の検討・実施	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革推進課 ◎教務課 ◎学生支援課		建学の精神を反映したカリキュラムにより、大学・大学院のビジョンに掲げる人材が輩出されている。	①浸透策に基づく周知 ②自校教育の検証実施	①継続実施	①継続実施	①継続実施	①継続実施
		(2) 規模拡大への取り組み	a. 新学部等の設置	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長		◎理事会 ◎常任理事会 ◎全学政策会議 ◎大学運営会議 ◎大学審議会 ◎教授会	新学部等を設置し、学生を確保している。	①両学部の改革検討状況を踏まえ、新学部設置可否検討			
		b. 文学部の改革	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事(文学部長)	◎大学改革推進課 ◎企画・財務課		文学部が学生を確保し、十分な教育水準を維持している。	①中国文学科改組案の策定 ②新学科申請等準備(詳細検討、人事計画等) ③学生募集力強化対策の検討	②新学科申請及び届出 ③募集状況等の確認・検証・改善策の実施 ④新学科学生募集広報の検討、実施	②新学科開設	②新学科2年目	②新学科3年目

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
1. 大学 (学部・大 学院)の フレーム	(2) 規模拡大へ の取り組み	c. 国際政治経済学部の改組検討	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 中山理事 (国際政治経済 学部長)	◎大学改革 推進課 ◎企画・財務課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・大学運営会議 ・大学審議会 ・教授会	国際政治経済学部の教育研究水準 が向上等している。	①新カリキュラムの効果 検証、確認 ②複数学科移行に向けた 検討 ③学生募集力強化対策の 検討	①新カリキュラム4年間の 検証、確認 ②国際政治経済学部の 改組検討 ③募集状況等の確認・ 検証・改善策の実施	①全体検証、改善 ②複数学科制の可否判断	①全体検証、改善	①全体検証、改善
		d. 国際政治経済学研究科の充実	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 中山理事 (国際政治経済 学研究科長)	◎大学改革 推進課 入試課 教務課		修士課程収容定員を充足している。	①新カリキュラム完成年度 ②内部進学者確保策 実施	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し
		e. 「在籍学生5,000人規模総合大学」へ向けた 取り組み	◎菅原学長	◎大学改革 推進課		上記「a」「b」「c」「d」の状況等を見な がら、適宜検討					
2. 大学のマネジメント(管理運営) ◆ 教学マネジメント体制の充実・強化											
	A. カリキュラムの体系化(カリキュラムマップ、ナンバリングの導入等)	・カリキュラムマップの作成 ・ナンバリング制度の導入 ・その他	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長		・教務委員会 ・教授会	学生の主体的な学びに寄与するカリ キュラムが整備され、国内外他大学と の単位互換が容易となる制度が整備 されている。	①ナンバリング制度の 充実、改善 ②効果検証、見直し ③外国語科目への具体的 到達数値の設定検討	②効果検証、見直し	①カリキュラムマップ、ナン バリング制度、科目 難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し	①カリキュラムマップ、ナン バリング制度、科目 難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し	①カリキュラムマップ、ナン バリング制度、科目 難易度の検証・改善 ②効果検証、見直し
	B. シラバスの充実・強化	・シラバス記載内容の見直し ・ルーブリック(評価基準)の確立 ・その他	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長		・教務委員会 ・教授会	シラバスの記載内容が統一・整備さ れ、当該科目の履修により修得でき る知識・技能が明示され、学生の主 体的な学修計画策定の一助となってい る。	①新シラバスの効果 検証、見直し ②シラバス内容の確認 体制検討	①新シラバスの効果 検証、見直し	①新シラバスの効果 検証、見直し	①新シラバスの効果 検証、見直し	①新シラバスの効果 検証、見直し
	C. 教育方法の改善・改革	・組織的FD活動の体系化と教科指導力の強化 ・授業方法改善 ・ICTの活用と学内ネットワークの見直し(無線LANの導入検討) ・CAP制度(年間履修上限単位制度)の全学的な導入 ・アクティブラーニングの推進 ・GPA制度の活用方法の検討 ・学修到達度調査・学修行動調査の導入 ・TA、SAの活用 ・図書館、ラーニングcommons等の施設機能充実 ・補習教育の充実、制度化 ・その他	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学部長) 中山理事 (国際政治経 済学部長) 土屋図書館長 瀧田センター長	◎教務課 大学改革 推進課 情報センター 図書課	・自己点検 評価運営 委員会等	PBL(Project Based Learning)、アクティ ブラーニングなどの新しい教授方法が導 入され、一方向的な指導から、双方 向の指導へと転換している。また、学 内ネットワークの見直しに伴う無線 LANネットワーク等が整備され、ICT を活用した新たな授業が展開してい る。CAP制度・GPA・学修到達度調 査・学修行動調査の活用と、TA・SA の活用、施設機能の充実等により、 学生が主体的に学習できる環境が整 備され、「学士力」が高まっている。	①SA制度の効果検証、 見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動の 単位化検討 ④ラーニング・commonsの 利用状況調査 ⑤授業アンケートの活用 状況調査実施 ⑥FDの計画案作成	①SA制度の効果検証、 見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単 位の検証・改善 ④FD活動等によるラー ニング・commonsの利 用促進策検証 ⑥FD計画の具体化・実施	①SA制度の効果検証、 見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単 位の検証・改善 ⑥FD計画の実施 ⑦アクティブラーニングの 検証・改善	①SA制度の効果検証、 見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単 位の検証・改善 ⑥FD計画の実施 ⑦アクティブラーニングの 検証・改善	①SA制度の効果検証、 見直し ②無線LAN検証・見直し ③ボランティア活動単 位の検証・改善 ⑥FD計画の実施 ⑦アクティブラーニングの 検証・改善
	D. 組織的な連携	・大学院、学部間の連携 ・学部間の連携 ・設置校(附属中学校、両附属高等学校)との連携	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 松葉校長 長谷川校長			各設置学校長間の連携・協力体制が 確立し、有機的かつ効率的な教育 サービスが学生・生徒等に提供され ている。	①大学院、学部間の連携 カリキュラム検討 ②学部間連携カリキュラム 検討 ③各学校長等による協議	①②大学内各組織の 連携開始 ③中高大連携具体策の 検討	①②効果検証、見直し ③具体策の導入	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し
	(1) 教育方針の 明確化	a. 大学全体の教育課程編成・実施方針、 学位授与方針の明確化	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長			カリキュラム、ディプロマポリシーが確 立され、育成する能力・知識・技術と 授業科目の内容との関連性が明示さ れている。	①新カリキュラムポリシー の浸透策検証				
	(2) 学位論文 審査基準の 明確化	a. 学位論文審査基準の策定	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革 推進課		客観性、厳格性が確保されたディ プロマポリシーが定められ、基準に則り 学位が授与されている。	①ディプロマポリシーに 基づく学位授与方針 の確定 ②学位論文審査基準の 策定				
	(3) 教育研究 情報の集約、 教育研究 成果の検証	a. 教育課程の適切性等検証体制の整備・効果 的な運営 b. シラバスと授業との整合性検証体制の整備 c. IR(Institutional Research)機能の充実 d. 教育成果検証体制整備、教育研究成果の 一元管理	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革 推進課 ◎教務課		学内外への教育研究成果の公表、シ ラバス掲載内容の適合性に係る検証 体制が構築され、ステークホルダー に情報提供されている。	①カリキュラムの適切性・ 整合性・改訂必要性 の検証 ②情報収集、データ公表 ③FD・IRによる効果検証	①検証結果による改善 ④新カリキュラムの検討 ⑤IR活動の活性化			

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
	(4)教員組織の整備	a. 学長の権限強化 b. 大学協議会・教授会等の機能権限の明確化 c. 副学長の職務権限の強化と明確化 d. 学部長の職務権限の明確化 e. 専任教員の充実(著名教員の招聘等)	◎菅原学長 五十嵐常任理事	総務・人事課 ◎大学改革 推進課		平成27年4月1日施行の「学校教育法の一部改正」に則った学内規程が運用され、学長のガバナンスが適正に実施されている。各会議体の役割分担、学内会議の整理統合が行われ、意思決定の迅速化が図られている。	①新体制での運用開始 ②改善点の抽出 ③各種規程の整備・検証	①新体制での運用2年目 ②改善点の抽出 ③各種規程の整備・検証	①新体制の検証	①新体制の検証	①新体制の検証	
3. 大学の教育改革	(1)二松学舎への愛校心(帰属意識)高揚教育	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時から教えを教授 c. 著名な本学関係者・卒業生の功績等を教授 d. 本校教育等のための共通テキスト導入	◎磯副学長 菅原学長 五十嵐常任理事	◎教務課		創作活動に対する支援、本学独自の出版活動等を通じ、関係者の帰属意識が高まっている。	①創作コンクールの実施 ②『文学散歩』(中部篇)の刊行 ③本校教育のあり方検討	①効果検証、見直し ③共通テキストを用いた 本校教育方針まとめ	①効果検証、見直し ③共通テキストの基礎 ゼミへの導入	①③効果検証、見直し	①③効果検証、見直し	
	(2)学生ニーズへの対応	a. 学生による授業アンケートの分析、授業改善・学校運営へのフィードバック b. 学生満足度調査の実施、結果分析、課題への対応	◎高野副学長 菅原学長 磯副学長 江藤理事 (文学部長) 中山理事 (国際政治経済学部長)	◎大学改革 推進課		授業アンケート、満足度調査等の結果が教育改革、環境整備に機動的に反映され、SS値(Student Satisfaction)が高まっている。授業アンケート等の評価結果がFDに反映されている。	①授業アンケートの実施 ②学生満足度調査の実施・検証 ③学生満足度調査結果で抽出した問題点の改善策検討	①授業アンケートの実施、 方式の検証 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点抽出	①授業アンケートの実施 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点の改善	①授業アンケートの実施 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点の改善	①授業アンケートの実施 ②学生満足度調査の分析 ③学生満足度調査結果による問題点の改善	
	(3)国際化への対応											
	①国際化教育・留学支援	a. 東アジアほかの大学との連携、及び派遣先の新規開拓 b. 留学生の受け入れと送り出し・双方向交流のための環境整備 c. 派遣留学生総数の引き上げ d. 国際センターの設置	◎高野副学長 菅原学長 塩田センター長 森野学務局長 大野理事	◎教務課 国際交流 センター	・国際交流 委員会 ・教務委員会 等	日本に根ざした道徳心と「国語力」を基礎として、英語・中国語・韓国語などの外国語の実用的スキルを身に付けた学生が、海外留学や学内での留学生との交流を通じて、国際的視野と異文化理解力を涵養している。様々な国からの留学生を受け入れ、国際交流が活発化している。	①各施策の効果検証、見直し ②学内の留学生受入体制整備と更なる充実 ③海外大学とのダブルディグリー入試制度の検討 ④東アジアの文化と社会プログラム充実策の検討 ⑤外国語教育検討協議会による全学的な外国語教育の見直し開始(英語必修化、中国語・韓国語教育の強化、日本語プログラムの改善、レベル別・少人数クラスの導入など) ⑥国際環境の変化に対応できる授業へ転換するためのFD検討	①効果検証、見直し ②学内の留学生受入体制整備と更なる充実 ③海外大学とのダブルディグリー入試制度の検討 ④東アジアの文化と社会プログラム充実策の実施 ⑤外国語教育検討協議会による全学的な外国語教育改善策の策定 ⑥国際環境の変化に対応できる授業へ転換するためのFD実施 ⑦海外大学とのダブルディグリー制度導入交渉開始	①効果検証、見直し ②学内の留学生受入体制整備と更なる充実	①効果検証、見直し ②学内の留学生受入体制整備と更なる充実	①効果検証、見直し ②学内の留学生受入体制整備と更なる充実	
	②語学教育	a. 語学教育の少人数化実施 b. 英語・中国語・韓国語等教育の強化										
③国際人としての教養教育	a. 日本・中国等東アジアの文学・歴史・文化、政治・経済等知識の教授 b. 国際環境の変化に対応できる知識・情報等の提供 c. 東洋の精神に基づく道徳心の涵養					H30年度 派遣留学生数:8名						
(4)キャリア教育・就職対策	a. 入学時からの体系的キャリア教育確立 b. 就職率アップ c. 各種資格取得の奨励、資格取得講座等受講者の増加 d. 実践的な知識技能の習得方策の検討 e. 地方公務員試験・国家公務員試験合格者の増加 f. 司書・学芸員採用者の増加 g. 就職先の開拓・拡大 h. キャリアカウンセラーの増員 i. インターンシップ先の開拓、インターンシップ機会の増加	◎高野副学長 菅原学長 佐藤センター長 森野学務局長 大野理事	◎就職支援課	・キャリアセン ター会議	東アジア文化・語学等を理解した本学の卒業生が、国内だけでなく世界の各界で活躍している。 H30年度 就職率(一般企業):95.0% H32年度 公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む):50名 H30年度 就職特別講座受講者:205名 H30年度 インターンシップ参加者:75名 H30年度 3年生への就職希望調査(個人面談率):100%	①各施策の効果検証、見直し ②職員の支援力向上策実施 ③国内インターンシップ派遣体制の充実 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標15名	①各施策の効果検証、見直し ②職員の支援力向上策実施 ③国内インターンシップ単位等について関係各課と検討、連携強化 ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標20名	①各施策の効果検証、見直し ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標25名	①各施策の効果検証、見直し ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標30名	①各施策の効果検証、見直し ④公務員(警察・消防を含む)試験合格者(既卒を含む)目標35名		
(5)教員養成教育の強化	a. 教員採用試験合格者の大幅増 b. 国語・書道・外国語(中国語)教員養成強化 c. 社会科教員養成への注力 d. 古文や漢文の実力持つ教員養成 e. 新たな教員免許制度に備えた対応 f. 卒業生教員との連携強化	◎磯副学長 菅原学長 若井田センター長 森野学務局長	◎教職支援 センター		毎年度、一定数の教員採用実績があり、「専門性の高い教員=二松学舎大学卒教員」というブランドが構築されている。 H30年度 専任教員採用者数:20名(うち社会科教員3名を含む。) H30年度 教員採用模試平均得点:54点	①各施策の効果検証、見直し ②「教員の会」神奈川県との連携強化 ③「教員の会」茨城県の会の立ち上げ・組織化 ④「教員の会」埼玉県の会の立ち上げ準備 ⑤教職希望者の学力等データ収集・蓄積 ⑥「教員の会」千葉県・東京都の会の立ち上げ準備	①各施策の効果検証、見直し ②③「教員の会」神奈川県・埼玉県・茨城県の会との連携強化 ④「教員の会」埼玉県の会の立ち上げ・組織化 ⑤教職希望者の学力等データ収集・蓄積 ⑥「教員の会」千葉県・東京都の会の立ち上げ準備	①各施策の効果検証、見直し ②③④「教員の会」神奈川県・埼玉県・茨城県の会との連携強化 ⑥「教員の会」千葉県・東京都の会の立ち上げ組織化 ⑦データを活用した教職支援センターの自己点検システム確立	①各施策の効果検証、見直し ②③④⑥「教員の会」首都圏1都4県の各会との連携強化 ⑦「教員の会」1都4県の会の合同開催準備 ⑧「本学卒業現職教員の会」を立ち上げる可能性のある他県の情報収集・会の立ち上げ打診	①各施策の効果検証、見直し		

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
						目標数値					
3. 大学の 教育改革	(6) 父母会・ 卒業生との 連携	a. 父母会との連携強化、意見を学校運営に 反映する仕組検討 b. 卒業生ネットワーク整備 c. 松苓会との連携強化	◎磯副学長 菅原学長 森野学務局長	◎学生支援課 大学改革 推進課		父母会組織が強化され、大学と密接 に連携し、効果的に各種事業を実施 している。松苓会との連携が強化さ れ、志願者の増、学生の就職活動上 の支援体制の充実に結びついている。	①地区別父母懇談会充 実策の効果検証 ②新父母会奨学制度の 効果検証、見直し ③松苓会との連携効果 等検証 ④卒業生名刺交換会 実施	①②③ 効果検証、見直し ④卒業生名刺交換会の 継続・検証 ⑤卒業生の新たなネット ワーク構築	①②③④ 効果検証、見直し ⑤卒業生名刺交換会の 継続・検証	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し
		a. 千代田区・柏市との連携による地域振興 教育の実施 b. 千代田区・柏市以外の地域との連携・ 「まちおこし」の検討 c. 教育研究成果の公表・社会への還元 d. 生涯学習講座の充実、市民の受け入れ e. 岡山商科大学、倉敷市との連携 f. 他大学との交流活発化	◎磯副学長 菅原学長 江藤理事 (文学部長) 中山理事 (国際政治経済 学部長) 土屋図書館長	総務・人事課 広報課 柏事務課 ◎大学改革 推進課 図書館		本学学生・生徒にとっての「学び舎」 としてだけでなく、地域社会・地域 住民にとっての知の拠点として、広く 一般に公開されている学校となってい る。 H30年度 柏市民の入館者数:1,720名 H30年度 生涯学習講座受講者増加 率及び人数:H25年度比+12.5%(受 講者数50名)	①前年度施策の効果 検証、見直し ②大妻女子大学との実質 的な学生間交流に ついての計画策定・ 連携開始 ③千代田区内大学と千代 田区の連携協力会議 参加 ④千代田学課題研究・ 新規応募 ⑤区内インターンシップ・ ボランティア等への参加 ⑥新たな公開講座の検討 ⑦生涯学習講座開講に ついて柏市の後援承諾 を受ける ⑧柏近隣の町会活動への 積極的参加 ⑨岡山商科大学との学術 連携開始 ⑩倉敷市との連携検討	①効果検証、見直し ③継続実施 ④継続実施 ⑤継続実施 ⑥柏市との連携による新 たな公開講座の導入 ⑧継続実施 ⑨岡山商科大学との学術 連携継続実施 ⑩倉敷市との連携につ いて具体案策定、実施	①効果検証、見直し ③継続実施 ④継続実施 ⑤継続実施 ⑥継続実施 ⑧継続実施 ⑨継続実施 ⑩継続実施	①効果検証、見直し ③継続実施 ④継続実施 ⑤継続実施 ⑥継続実施 ⑧継続実施 ⑨継続実施 ⑩継続実施	①効果検証、見直し ③継続実施 ④継続実施 ⑤継続実施 ⑥継続実施 ⑧継続実施 ⑨継続実施 ⑩継続実施
4. 大学院の 教育改革	(1) 文学研究科 の改革	a. 東アジア学術総合研究所との連携、日本漢文 学・中国学・国文学の日本における拠点として の地位向上 b. 教員・研究者の輩出	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学研究科長) 高山研究所長	◎大学改革 推進課 教務課	・専攻主任会議 ・研究科委員会	国内外への研究成果の情報発信を 通じて「国漢の二松学舎」の伝統を保 ち、専門性の高い国語科教員、研究 者が全国で活躍している。	①新カリキュラムの実施 ②若手研究者受入体制 の検討 ③海外大学教員を研究生 として受入 ④前年度施策の効果 検証、見直し	①効果検証、見直し ②若手研究者受入体制 の整備 ⑤大学院学費改定実施	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し	①②③④⑤ 効果検証、見直し
		(2) 国際政治経 済学研究科 の改革	a. 産学協同の推進 b. 専門的職業人の育成	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 中山理事 (国際政治経済 学研究科長)	・専攻主任会議 ・研究科委員会	広い視野と実践的対応力を身に付け た、国際的職業人を多数輩出してい る。	①新カリキュラムの実施 ②寄付講座受入検討 ③内部進学者の確保 ④社会人受入の推進 ⑤効果検証、見直し	①効果検証、見直し ②寄付講座導入案策定 ⑥大学院学費改定実施	①効果検証、見直し ②寄付講座開設	①②③④⑤⑥ 効果検証、見直し	①②③④⑤⑥ 効果検証、見直し
	(3) 教員養成の 高度化に 向けた対応	a. 新たな教員免許制度に備えた対応	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学研究科長) 中山理事 (国際政治経済 学研究科長)	◎教職支援 センター 教務課 大学改革 推進課	・教職課程等 カリキュラム 検討委員会	現職教員の履修に配慮した受け入 れ体制や、高度専門職として位置付 けられた教員養成に必要な教育課程 が整備されている。	①新教員免許制度の導入 に合せた教育プログラ ム等の実施	①継続実施	①継続実施	①継続実施	①継続実施
	(4) 国際化への 対応	a. 東アジア学術総合研究所と連携した 海外大学等との国際交流の推進	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 高山研究所長	◎大学改革 推進課		海外大学等への本学関係者の派 遣、海外研究者等の受け入れが活発 に行われ、ダブルディグリー制度等 が機能している。	①国際交流活性化策の 一部実施、ダブルディ グリー制度導入に向け た学内体制の整備	①国際交流活性化策の 一部実施	①国際交流活性化策の 一部実施	①国際交流活性化策の 一部実施	①国際交流活性化策の 一部実施
5. 研究活動 の推進	(1) 研究活動の 推進・充実	a. 研究活動に係る補助金の積極的獲得 b. 日本漢文学研究の世界的拠点の構築 c. 秋葉原での研究拠点構築	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 江藤理事 (文学研究科長) 中山理事 (国際政治経済 学研究科長) 高山研究所長	◎大学改革 推進課 企画・財務課		学術研究に係る補助金を積極的に 獲得し、研究活動を推進している。 日本漢文学研究の世界的拠点として 内外から認識されている。 秋葉原に研究拠点が構築され、本学 の新たな研究活動拠点として機能し ている。	①私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業推進 ②秋葉原での研究拠点 構築の次年度申請に 向けた調査・準備	①継続実施 ②秋葉原での研究拠点 構築のための物件 確保、申請、及び研究 活動開始	①中間報告 ②継続実施	①継続実施 ②中間報告	①私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業の 研究成果発表 ②秋葉原での研究活動 継続実施、成果発表 準備

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)										
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画						
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
6.学生支援	(1)総合的 学生 支援策	a. 学生支援業務への全学的な理解の浸透	◎森野学務局長				①講演会、研修会などによる学生支援についての共通認識醸成	①継続実施	①継続実施 ②効果の検証	①継続実施 ②効果の検証	①継続実施 ②効果の検証	①継続実施 ②効果の検証	
		b. 学生支援センターの開設と運用	◎森野学務局長			多様な学生に対する共通認識を基盤にして、学修支援や利用しやすい相談窓口、ラウンジ的な機能も担う、学生サービスの一元的担当組織として「学生支援センター」が設立され、教職協働に基づき、学生たちが安心して充実した学生生活が送れるような学生支援が行われている。	①学生支援センターの開設準備 ②学内連携の強化に向けた取り組み検討	①学生支援センターの開設 ②学内連携に向けた規程整備準備	①② 課題の洗い出しと対応策の検討	①② 課題の洗い出しと対応策の検討	①② 課題の洗い出しと対応策の検討		
		c. 学生支援スタッフの育成とピアサポート	◎森野学務局長	◎学生支援課			①学生委員会を中心に支援システムを検討・構築 (マニュアル作成などを含む)	①支援システムの試験運用開始 ②学生委員会、および学生スタッフが中心となり、学生支援センターに積極的に参加する	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し		
		d. 保健室運営の見直し	◎森野学務局長				①恒常的な開室時間の延長 ②医師との連携や医師配置の検討	①終日開室と職員常駐体制の準備 ③保健衛生教育の本格的展開	①終日開室と職員常駐体制の実施	①③継続実施	①③継続実施		
		e. 留学生支援	◎高野副学長 塩田センター長 森野学務局長	教務課 学生支援課 ◎国際交流センター			短期・長期留学生の増加、相互の国際的文化交流により、学生達の多角的な学習が発展している。  H30年度 私費外国人留学生数:65名	①新規協定校との協定締結(継続) ②認定留学制度の規程整備 ③留学生派遣受入体制(学修支援・生活支援)の点検、改善 ④各種語学検定の積極的活用の検討 ⑤グローバルポリシーに基づく開講科目検討	①協定校間の相互交換留学プログラムの試験的展開 ②認定留学制度の施行 ④各種語学検定の積極的活用策の導入	①協定校間の相互留学プログラムの安定化 ②③④ 効果の検証、見直し	①②④ 効果の検証、見直し	①②④ 効果の検証、見直し	
		f. 奨学金制度の拡充	◎高野副学長 西畑常任理事	◎学生支援課 企画・財務課		経済的困窮や家計の急変に対する経済的支援が、給付型奨学金を中心に充実しているとともに、特待生、一定の資格獲得者、課外活動等の優秀者への奨学金も創設され、学生たちのインセンティブになっている。	①新奨学金制度の一部施行	①新奨学金制度の一部施行 ②効果検証、支給人数等の見直し	②効果検証、支給人数等の見直し	②効果検証、支給人数等の見直し	②効果検証、支給人数等の見直し		
		g. 課外活動支援 ・全学的なサポート体制の構築 ・顧問制度の見直し ・施設設備の充実	◎森野学務局長	◎学生支援課		九段・柏両キャンパスにおける、施設の充実が図られ、多くの学生がスポーツ・文化系の課外活動に参加している。  H30年度 課外活動加入率:40.0%	①九段・柏両キャンパスの学生施設全体計画の検討 ②新支援制度の検討、導入準備	①継続検討 ②学生の課外活動への支援制度の規程整備・導入準備	①学生施設整備全体計画案の策定 ②新支援制度の導入	①一部実施 ②効果検証、見直し	①一部実施 ②効果検証、見直し		
		h. キャリア教育・就職支援				学生が就業力を高められる就職支援体制を確立し、就職希望者の就職率が100%に近づいている。	①他部署(学生支援センター等)との連携強化 ②学生ポートフォリオを活用した就職支援	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し		
		①入学時からの体系的キャリア教育	◎高野副学長 菅原学長 佐藤センター長 森野学務局長 大野理事	教務課 ◎就職支援課	・教務委員会 ・キャリアセンター会議		①実践的講座の充実 ②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し		
		②実践的キャリア教育					①学生の就職先企業分析の継続実施	②開拓企業への内定状況等検証	①②継続実施	①②継続実施	①②継続実施		
		③就職率向上につながる求人開拓					①実業界OB・OGネットワーク試験実施(在職調査開始) ②卒業生データの整備・充実、関係部署との情報共有	①実業界OB・OGネットワーク確立 ③卒業生在職調査継続実施	①②③ 効果検証、見直し	①②③ 効果検証、見直し	①②③ 効果検証、見直し		
			④卒業生とのネットワーク強化	◎磯副学長 菅原学長 佐藤センター長 森野学務局長	教務課 ◎就職支援課	・教務委員会 ・キャリアセンター会議							
		(2)学生ポータル サイト、学生 ポートフォリオ の活用	a. システムを利用した教員、学生間コミュニケーションの充実 b. 学修履歴、指導履歴の可視化・記録化 c. システムを介した仮想共同学修空間の創設 d. ポータルサイトを利用した情報周知の徹底、利便性の向上	◎磯副学長 佐藤センター長 瀧田センター長 若井田センター長 森野学務局長	◎教務課 学生支援課 就職支援課 情報センター 教職支援センター		学生ポータルサイトを介した情報提供が円滑になされており、学生ポートフォリオシステムの多様な機能を活用した学生の主体的な学びの体制が構築されている。	①本稼働 ②学生及び教員への使用支援	①システム運用の検証(前期) 検証内容を踏まえた改善(後期) ②継続実施	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
7.入学者の確保、退学者等の減少	(1) 優秀な学生の確保・入試改革	a. アドミッションポリシーに基づく入学試験の実施 b. 推薦入試入学者と一般入試入学者のバランス是正 c. 一般入試成績上位者の確保 d. 実質倍率の向上 e. 大学入試センター試験廃止後に向けた対応 f. 外国人留学生の受け入れ g. 社会人学生の受け入れ h. 学部生卒業保証制度の検討 i. 志願者総数の引き上げ	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長 西畑常任理事	◎入試課	・大学運営会 ・学生募集広報戦略検討会議	成績優秀者に対するインセンティブが確立し、これに伴い入学者の試験別比率が、一般入試入学者が過半数を占めるようになっている。  H30年度 一般入試入学者率:42.0% H30年度 志願者数増加率:H27年度比+60%(志願者数 文学部2704名、国際政治経済学部872名)	①ポリシーの検証、見直し ②Web出願システム導入 ③奨学金入試制度導入 ④戦略的入試広報立案・実施 ⑤中期的学生募集戦略に基づいた学生募集策の実施 ⑥指定校(日本語学校)設定 ⑦留学生対象説明会への参加 ⑧日本語学校等への広報活動実施 ⑨平成28年度入学志願者前年度対比+200名必達	①②③④⑤⑥⑦⑧ 効果検証、見直し  ⑨センター入試廃止後の入試制度について検討	①②③④⑤⑥⑦⑧ 効果検証、見直し  ⑨センター入試廃止後の入試制度について検討	①②③④⑤⑥⑦⑧ 効果検証、見直し  ⑨新入試制度の概要策定	①②③④⑤⑥⑦⑧ 効果検証、見直し  ⑨センター試験廃止に伴う新入試制度の概要確定
	(2) 退学者等の減少	a.退学者等の減少	◎森野学務局長	◎学生支援課		総合的な学生支援策が奏功し、退学者、除籍者、休学者などが減少している。  H30年度 退学・除籍者数等:40名	①継続的な分析と対応策の検討 ②改善案の策定と実行	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し	②効果検証、見直し
8.キャンパス整備	(1) 九段での教育研究環境整備、学生ホール等の整備	a. 九段地区で新校舎建設 b. 九段キャンパス既存校舎の改修 c. 秋葉原での研究拠点構築	◎西畑常任理事 菅原学長	◎企画・財務課 総務・人事課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・キャンパス整備委員会	1号館～4号館の建物群で構成された「都市型キャンパス」として機能している。	①九段4号館本格稼働開始 ②別館賃借解消 ③九段エリアの物件情報収集 ④秋葉原サテライトの検討、情報収集、テナント物件情報収集	①利用状況調査、改善 ③九段エリアの物件情報収集 ④秋葉原での物件確保 ⑤学科改組を踏まえた教室過不足の調査、対応策の実施	①③継続実施	①③継続実施 ⑥新たなキャンパス整備計画の検討	①③継続実施 ⑥具体案の策定
	(2) 柏キャンパスの整備・活用	a. 大学九段集約後の利用計画検討 b. 全天候型グラウンドへの改修 c. 生涯学習等で活用	◎西畑常任理事 菅原学長	◎企画・財務課 総務・人事課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・キャンパス整備委員会	大学・両附属高校・中学校の連携・協力によって、施設が効率的に活用されている。	①柏キャンパス整備、活用計画の検討と策定 ②柏施設使用に関する内規制定について検討	①柏キャンパス活用計画の実施 ②柏施設使用に関する内規制定、施行	①②効果検証、見直し	③新たなキャンパス整備計画の検討	③具体案の策定
	(3) 図書館の整備	a. 九段・柏両館の重複資料の整理・一本化 b. 省スペースでの効果的な利用方法の検討	◎磯副学長 菅原学長 土屋図書館長	◎図書課		省スペースで効果的な利用方法を確立し、次世代型の図書館として運営され、利便性が高まっている。	①整備計画に基づいた運営実施 ②重複雑誌のデータ整理・除籍計画策定・実施	①②継続実施	①②継続実施 ③紀要整理	①②③継続実施	①②③継続実施
IV. 附属高校の教育改革											
1. 教育改革	(1) 附属高の「ビジョン」の浸透	a. 附属高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施	◎松葉校長	◎高校事務室	・主任会議	論語・漢文を通した全人教育を行うことにより、ビジョンを内外に浸透させる。  H30年度 漢文検定合格者:50名	①漢文検定において、受験者300名、合格者100名を目標とする。	①検証・見直し	①制度確立	①効果検証、見直し	①効果検証、見直し
	(2) 「人間(ひと)作り」、人格教育	a. 精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b. 問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c. 東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	◎松葉校長	◎高校事務室	・国語科(論語担当者) ・総務部 ・生活部	「人間(ひと)作り」のための行事等を強化し、生徒の精神力を育む。	①前年度施策の検証・見直し	①効果検証、見直し	②伝統行事の完成 ③ボランティア活動の定着	①②③継続実施	①②③継続実施
	(3) 愛校心の育成	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時から教えを教授 c. 有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授 d-1. 授業の改善・工夫の実践 d-2. クラブ活動の活発化による愛校心育成 d-3. 甲子園連続出場	◎松葉校長 五十嵐常任理事	◎高校事務室	・生活部 ・校内松友会	学校の教育活動全体を通して仲間意識を醸成し、一体感を育て帰属意識や学校への愛校心が育成されている。	①映像を活用した二松学舎理解教育実施 ②コラム継続実施 ③部活動指導体制の充実 ④各種施策の実施	①②③④ 効果検証、継続実施	①②③④ 効果検証、継続実施	①②③④ 効果検証、継続実施	①②③④ 効果検証、継続実施
	(4) 国際化への対応	a. 外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 b. 交換留学制度の検討 c. 英検等合格者の増加	◎松葉校長 大野理事	◎総務・人事課 ◎高校事務室	・英語科 ・教務部	実力テスト等の導入や交換留学制度の確立により、国際化に対応できる人材を育む。英検合格者をH30年には次のように引き上げる。 H27年度(3年生) ・2級合格=9名(234名中、3.8%) ・準2級合格=61名(234名中、26%) ↓ H30年度(3年生) ・2級合格=25名(250名中、10%) ・準2級合格=125名(250名中、50%)	①外部英語試験導入検討 ②ALTによる英語授業の充実 ③講演会の効果検証、見直し ④海外語学研修(英語)の実施方法検討	①外部英語試験導入検討 ②ALT活用の継続実施 ③海外語学研修(英語)実施 ④交換留学制度の検討	①外部英語試験の導入、スコア分析 ②各制度の確立・継続実施	①外部英語試験のスコアアップ ②各制度の継続実施	①外部英語試験のスコアアップ ②各制度の継続実施

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
1. 教育改革	(5) 地域・社会との連携	a. 保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進	◎松葉校長	◎高校事務室	・図書部 ・学校評価委員会	学校評価委員会の活用、町内行事への参加により、地域との連携体制を維持している。	①学校評価委員会、町内行事への教職員生徒の参加を継続実施	①継続実施 ②外部委員による検証・問題点抽出	①継続実施 ②問題点の検証・改善	①継続実施 ②問題点の検証・改善	①継続実施 ②問題点の検証・改善
	(6) 教育の実践・充実	a. 学力の向上 b. 難関大学への合格者増 c. 教員の組織的なFD活動実施の検討 d. 教員の教科指導力の向上 e. 大学入試制度改革と連動した教育課程の見直し	◎松葉校長	◎高校事務室	・教務部 ・進路指導部 ・教科主任会議	難関大学への合格者を毎年度輩出する。(当面は、GMARCH 30名、日東駒専100名合格を目標とする。)このために、教員の教科指導力を強化するための研修制度が確立されている。  H30年度 特進クラス難関大学(GMARCH)合格率:80.0% H30年度 一般クラス中堅私大(日東駒専)合格率:60.0%	①各種講習の有機的な実行体制本格実施 ②前年度施策の継続実施、見直し ③教科別指導プログラムの立案・実施 ④英語教員の海外語学研修実施 ⑤研究紀要による研究・研修実績公表 ⑥中学教育補完講座充実 ⑦大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバス案の検討	①各種講習の効果検証、見直し ②③④⑤⑥前年度施策の継続実施、見直し ⑦大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの策定 ⑧教員への大学院等への派遣研修実施の検討	①各種講習の実施方法確立 ②③④⑤⑥前年度施策の継続実施、見直し ⑦大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの実施 ⑧教員の大学院等への派遣研修実施 ⑨研修制度確立	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨前年度施策の継続実施、見直し	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨前年度施策の継続実施、見直し
	(7) 入学者の確保、退学者等の減少	a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少	◎松葉校長	◎高校事務室	・入試企画部 ・入試委員会	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。  H30年度 入学定員充足率:100% H30年度 退学率0.5%	①前年度施策の継続実施、検証・見直し ②成績不振者への対策授業を各学年で年間で行う。 ③各担任による二者面談の強化 ④説明会・相談会の参加者増加策を検討・実施 ⑤募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ⑥生徒の満足度向上の対策を検討 ⑦習熟度別クラス編成の実施	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し	①②③④⑤⑥⑦前年度施策の継続実施、検証、見直し
	(8) 両附属高校間の連携強化	a. 教育プログラムの共同開発 b. 施設・設備の共同利用 c. その他(人事交流・卒業生組織の連携等)	◎五十嵐常任理事 松葉校長 長谷川校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	・附属中学・高校改革検討会議	両附属高校間の連携による教育プログラムや授業副教材の開発、施設・設備の共同利用等が行われ、教育効果が高まっている。	①両附属高校で連携した教育プログラムの検討 ②柏キャンパス共同利用ルールに基づいた利用の開始 ③人事交流制度の検討 ④卒業生組織の連携検討	①両附属高校で連携した教育プログラムの開発 ③人事交流制度の規程整備 ④卒業生組織の連携検討	①両附属高校で連携した教育プログラムの実施 ③人事交流制度施行 ④卒業生組織の連携案策定	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施
2. 生徒支援	(1) 生徒支援	a. 入学から卒業までの生徒支援体制の整備 b. 父母の会・同窓会との連携強化、意見を学校運営に反映 c. 奨学金制度の充実	◎松葉校長	◎高校事務室	・主任会議	特待生制度の拡充等により生徒を支援する。	①改正規程による給付奨学制度試行 ②チューター制度拡充準備 ③父母の会、同窓会支援制度の検討	①効果検証、見直し ②チューター制度拡充実施 ③父母の会、同窓会支援制度の実施	①②③制度確立	①②③制度確立	
3. キャンパス整備	(1) 附属高校の施設設備整備	a. 現在地で将来の校舎建替を検討 b. 柏を運動施設として活用	◎西畑常任理事 松葉校長	総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎高校事務室	・体育科 ・生活部	九段校舎の設備を充実させつつ、柏の体育施設を有効活用している。	①柏での体育集中授業の継続実施、見直し ②九段校舎設備整備実施	①継続実施、見直し ③柏グラウンドの設備充実策検討	③柏グラウンドの設備充実策検討 ④柏活用体制の確立	②九段校舎の現在地での建替の可能性・時期等の検討 ④柏活用体制の確立	②九段校舎の現在地での建替の可能性・時期等の検討 ④柏活用体制の確立
V. 附属柏中学校・高校の教育改革											
1. 教育改革	(1) 附属柏中高の「ビジョン」の浸透	a. 附属柏中高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・広報部会 ・教務部会	ホームページ、広報用パンフレット、校内研修等が充実し、校内外のステークホルダーに本校のビジョンが浸透している。	①ホームページ上、広報用パンフレットへの掲載 ②研修内容の検証、改善	①内容の検証、改善 ②継続実施	①内容の検証、改善 ②研修内容の検証、改善	①内容の検証、改善 ②研修内容の検証、改善	①内容の検証、改善 ②研修内容の検証、改善
	(2) 「人間(ひと)作り」、人格教育	a. 精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b. 問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c. 東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・教務部会 ・国語科会議 ・学年会議 ・生徒部会	東洋の精神に基づき、相対的な価値観を求める観点から多様な思想を学び、大きな視野にたつて物事を考えられる生徒を輩出している。	①『論語』の教員研修継続実施 ②中学論語検定継続実施 ③高校での論語検定実施検討 ④前年度施策の効果検証、改善 ⑤合同行事の実施	①②③④⑤継続実施	①②③④⑤継続実施 ⑥研修内容の検証、改善	①②③④⑤継続実施 ⑥研修内容の検証、改善	①②③④⑤継続実施 ⑥研修内容の検証、改善

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
						目標数値						
1. 教育改革	(3) 愛校心の育成	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時から教えを教授 c. 有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授	◎長谷川校長 五十嵐常任理事	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・広報部会 ・教務部会 ・中学校会議	今日の国際社会に生きる生徒たちが、世界的な視野にたった三島中洲師の思想に価値観を見出し、それを受け継ごうとしている。	①前年度施策の継続実施、検証	①継続実施、検証	①継続実施、検証	①継続実施、検証	①継続実施、検証	
		(4) 国際化への対応	a. 外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 ・ネイティブ(英語・中国語・韓国語)教員の確保 ・英語圏への短期研修の実施 b. 英検等合格者の増加	◎長谷川校長 大野理事	総務・人事課 ◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・教務部会	オーストラリア等の英語圏及び中国への研修などが実施され、国際交流が充実している。 卒業学年(3年生)の100%が英検3級、50%が準2級、20%が2級に合格している。	①中学生向け中・韓国語補修の実施 ②中3特選、高2スーパー特選オーストラリア語学研修実施 ③中学グローバルコース開始	①②継続実施 ③高校グローバルコース開設準備	①②継続実施 ③高校グローバルコース開設	①②継続実施	①②継続実施
			(5) 地域・社会との連携	a. 保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進 ・補習授業、夏季勉強会におけるサポーター(卒業生等)の活用	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・生徒部会 ・教務部会 ・中学校会議	柏市、地域住民、企業などとの新しい連携、交流が深まり、地域における存在感が増している。	①夏期勉強会宿への大学生サポーター導入の実施と効果検証 ②近隣等の清掃活動継続実施 ③『沼の教室』、『田んぼの教室』継続実施	①②③継続実施	①②③継続実施	①②③継続実施
	(6) 教育の実践・充実	a. 学力の向上 ・学年、教科間での情報の共有と連携の強化 ・教員研修の実施 ・中高一貫カリキュラムの検証、確認 b. 難関大学への合格者増 ・中高におけるFD推進による教科指導力の強化 c. 大学入試制度改革と連動した教育課程の見直し	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・進路部会 ・教務部会 ・中学校会議 ・高等学校会議 ・学年会議 ・各教科会議	スーパー特選クラス、特選クラスをはじめとして、進学校としてより充実した教育が実践されている。教員の質が更に向上し、実践的な授業が展開されている。具体的には、スーパー特選は難関国立大学(特に理系)及び私立大学への現役合格率50%、特選は難関私立大学への現役合格率100%という目標に近づいてきている。 H30年度 国公立、早慶上理、GMARCH合格者数:70名	①前年度施策の継続実施、効果検証 ②学習クラブへの支援策検討、実施 ③アドバイザー業者活用 ④報告会、研修会の継続・改善 ⑤語学力強化指導継続、効果検証、改善 ⑥大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバス案の検討	①②③前年度施策の継続実施、検証 ④報告会、研修会の継続・改善 ⑤語学力強化指導継続、効果検証、改善 ⑥大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの策定 ⑦特、特選カリキュラムの検証	①②③④⑤前年度施策の継続実施、検証 ⑥大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの実施	①②③④⑤⑥前年度施策の継続実施、検証	①②③④⑤⑥前年度施策の継続実施、検証	
		(7) 入学者の確保、退学者等の減少	a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少 c. 附属柏中学の生徒募集力強化	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議等	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。	①高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③ベネッセスタディーサポート、ファインシステムの継続、効果検証、改善 ④生徒面談の充実、カウンセラーの活用 ⑤生徒募集担当顧問の配置による募集力強化	①高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤継続、効果検証、改善	①高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤継続、効果検証、改善	①高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤継続、効果検証、改善	①高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ②教室確保と配置の検討 ③④⑤継続、効果検証、改善
	(8) 規模拡大	a. 附属柏高校の規模拡大 ・臨時定員増を活用した規模拡大 b. 附属柏中学で入試難易度を下げずに規模拡大 ・進路実績の向上	◎長谷川校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・中学校会議 ・高等学校会議	中学校において定員充足率が100%を超え、徐々に拡大している。 H30年度 高校定員充足率:116.0% H30年度 中学校定員充足率:100.0%	①中学グローバルコース開始 ②中1、高1全員へタブレットPC導入 ③授業、学校支援サービス導入	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証	①②③継続実施、検証	
		(9) 両附属高校間の連携強化	a. 教育プログラムの共同開発 b. 施設・設備の共同利用 c. その他(人事交流・卒業生組織の連携等)	◎五十嵐常任理事 松葉校長 長谷川校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	・附属中学・高校改革検討会議	両附属高校間の連携による教育プログラムや授業副教材の開発、施設・設備の共同利用等が行われ、教育効果が高まっている。	①両附属高校で連携した教育プログラムの検討 ②柏キャンパス共同利用ルールに基づいた利用の開始 ③人事交流制度の検討 ④卒業生組織の連携検討	①両附属高校で連携した教育プログラムの開発 ③人事交流制度の規程整備 ④卒業生組織の連携策定	①両附属高校で連携した教育プログラムの実施 ③人事交流制度施行 ④卒業生組織の連携案策定	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施	①効果検証、見直し ③継続実施、見直し ④卒業生組織の連携策実施
	2. 生徒支援	(1) 生徒支援	a. 入学から卒業までの生徒支援体制の整備 b. 父母の会・同窓会との連携強化、意見を学校運営に反映 c. 奨学金制度の充実	◎長谷川校長	◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議 ・教務部会 ・総務部会	教職員、父母、卒業生などの協力体制の下で、6年間(3年間)を通じて生徒の進路実現に向けたサポートが体系的に実施されている。	①個別面談、保護者会、懇談会等の実施、検証 ②学校評価委員会充実策の継続実施、効果検証、見直し ③特待生制度拡充策の取り組み	①②効果検証、見直し ③規程整備	①②効果検証、見直し ③特待生制度拡充策施行	①②効果検証、見直し ③特待生制度拡充策施行	①②効果検証、見直し ③特待生制度拡充策施行
			3. キャンパス整備	(1) 附属柏中高の施設設備整備	a. 自然環境を生かした整備	◎西畑常任理事 長谷川校長	◎企画・財務課 ◎高校事務室	・校長室会議 ・執行会議 ・教員会議等	ビオトープなどの設置が進み、より充実した教育環境が整備されている。	①ビオトープ設置具体案の策定 ②敷地内樹木の名札設置の継続実施 ③自然観察の継続実施	①ビオトープ設置 ②③継続実施	①効果検証 ②③継続実施



N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
						目標数値					
VI. 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他											
1. 長期ビジョンの推進	(1) N'2020Planの推進とそのための情報の共有化	a. N'2020Planを学生生徒・父母・OB・教職員等へ伝授、共有化	◎西畑常任理事 五十嵐常任理事	広報課 ◎企画・財務課	・アクションプラン推進管理委員会	長期ビジョンの精神が学内外関係者に理解・共有され、諸改革への積極的な支援・協力体制が整っている。	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布	①ステークホルダーへの情報提供について適宜検証・見直し ②アクションプラン年次報告書作成・配布 ③長期ビジョン総括準備
2. 財務	(1) 学生生徒等納付金の増収	a. 戦略的授業料体系の検討	◎西畑常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長 松葉校長 長谷川校長	◎企画・財務課 ◎大学改革推進課	・理事会 ・常任理事会 ・全学政策会議 ・教授会等	都市型大学として、多様化する学生ニーズに即応できるための財政基盤が築かれている。 H30年度 H26年度対比学納金増収額:156,000千円	①両附属高校の学費改定 ②大学の学費改定実施 ③学費等改定による変化等の検証	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し
		b. 学生確保のための奨学金支給拡充	◎西畑常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長 松葉校長 長谷川校長	◎企画・財務課 ◎大学改革推進課	・理事会 ・常任理事会 ・予算編成会議 ・全学政策会議 ・教授会等	給付型奨学金支給人数拡充に向け、計画的な基金の積み増しが行われている。 H30年度 第3号基本金積増額:300,000千円 H30年度 奨学金受給者数:51名 H30年度 奨学金支出額:54,038千円	①新奨学金制度施行 ②奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し計画検討	②奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施	②奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施	②奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施	②奨学金拡充の効果検証、見直し ③第3号基本金の計画的積み増し実施
	(2) 他の収入の恒常化	a. 競争的補助金の積極的確保	◎西畑常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎企画・財務課 ◎大学改革推進課	・全学政策会議 ・部局長会議	科研費等の申請が増加し、専任教員の4割が公的資金を活用している。経常費等補助金(特別補助)については、獲得目標件数を定め、獲得率80%を目標とする。	①科研費申請等への奨励制度実施 ②未来経営戦略推進経費中間報告 ③特別補助受給目標100%達成 ④科研費等研究助成業務の抜本的見直し検討	①継続実施 ③新受給目標の設定	①継続実施 ②未来経営戦略推進経費最終報告 ③新受給目標80%達成	①継続実施 ③新受給目標80%達成	①継続実施 ③新受給目標80%達成
		b. 寄付金の戦略的な確保	◎西畑常任理事 菅原学長 松葉校長 長谷川校長	◎企画・財務課 総務・人事課	・教育研究振興資金管理運営委員会	ステークホルダー毎に内容を変更した寄付募集案内等を送付し、寄付者の寄付意欲向上に繋がる募集活動を展開。寄付率(寄付件数/DM発送件数)10%を目標とする。 H30年度 寄付率(寄付件数/DM発送件数):8.0% H30年度 寄付金額:80,000千円	①創立140周年記念募金募集準備 ②寄付率3%の達成 ③カテゴリー別募集案内の導入 ④寄付率調査、新寄附金募集方法の効果検証	①創立140周年記念募金募集開始 ②寄付率5%達成	①創立140周年記念募金募集 ②寄付率6%達成	①創立140周年記念募金募集 ②寄付率8%達成	①創立140周年記念募金募集 ②寄付率8%達成
		c. 二松学舎サービス(株)の業容拡充・収益向上	◎西畑常任理事	企画・財務課 総務・人事課 ◎二松学舎サービス	・全学政策会議 ・二松学舎サービス連絡会議(仮称) ・二松学舎サービス取締役会	二松学舎の関係者から、より喜んで貰い、より役に立つ、信用力のある会社であるとの評価が定着している。 二松学舎外部からの売上があり、地域や教育研究関係に貢献する会社となっている。 収益を継続的に確保する安定した会社運営がなされている。 平成24年9月決算比:売上高は2.5倍(約8億円)、利益は2倍(売上総利益約1億円)となっている。 H30年度 売上高:630百万円 H30年度 売上総利益:84百万円	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施 ①他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク維持・強化 ②他大学出資事業会社との共同連携事業検討 ①学内サポート体制の確立(二松学舎内関係部署との連絡会定期開催、取締役会の活性化) ①経営5カ年計画継続実施	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施 ①他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク発展・強化 ②他大学出資事業会社との共同連携事業着手 ③外部売上増加策実施 ①5カ年計画の検証、見直しに着手	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施 ①②効果検証、見直し ③外部売上増加策実施 ①5カ年計画の総括	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施 ①②効果検証、見直し ③外部売上増加策実施	①既存事業の深耕・営業強化策実施 ②新規事業に順次着手 ③法人経費節減につながる改善策の実施 ①②効果検証、見直し ③外部売上増加策実施

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)										
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画						
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
	(3) 人件費比率の抑制	a. 人件費比率の適正化	◎西畑常任理事 小町理事	企画・財務課 ◎総務・人事課 教務課	・予算編成会議	法人全体で退職金を除く人件費比率が50%程度で推移しており、特に大学非常勤教員数がH27年度より3割程度削減されている。	①制度に基づいた適正な開講科目・コマ数開講 ②適正な開講科目・コマ数に基づく非常勤教員の削減	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	①②効果検証、見直し	
		(4) 経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持	a. コスト意識の浸透、経費管理の徹底・無駄の排除、経営の合理化	◎西畑常任理事 小町理事	◎経理課	・予算編成会議	部署別予算制度導入による事業計画と経費管理が実現している。	①各部署への説明実施 ②部署別予算導入 ③新基準による会計処理の徹底	②部署別予算導入	②検証・見直し	②検証・見直し	②検証・見直し	②検証・見直し
	b. 経費節減	◎西畑常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎柏事務課	・部課長会議等	経費節減の精神が学内構成員に浸透し、無駄のない職場になっている。 H26年度 柏キャンパス年間施設管理業務委託料:H25年度比-20%	①管理経費の各部署への周知、節減意識醸成 ②実施した経費節減策の検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施	①②検証、継続実施	
	(1) 教職員人材の育成	a. 「教職協働」の考え方定着化	◎五十嵐常任理事 小町理事 野口理事	◎総務・人事課	・全学政策会議 ・部局長会議 ・相互会代表者会議	課題解決に向け、教員と職員が議論する環境が整い、それぞれの立場を尊重し目標実現に向け前進する風土が確立している。	①前年度施策の継続実施 ②「教職協働」定着化	①継続実施、効果検証、見直し	①継続実施、効果検証、見直し	①継続実施、効果検証、見直し	①継続実施、効果検証、見直し	①継続実施、効果検証、見直し	
3. 教職員の育成	(1) 教職員人材の育成	b. 教員の組織的なFD活動実施の検討 (授業公開、授業アンケート結果の分析応用、アクティブラーニング、PBL授業の導入等)	◎磯副学長 野口理事	◎大学改革 推進課	・自己点検評価 運営委員会	FD活動が定着し、実質的に機能している。	①FD活動内容の再検討 ②組織的FD一部実施 ③授業アンケート結果の有効活用による授業改善	②一部実施	②一部実施	②一部実施	②一部実施	②一部実施	
		c. 事務職員に対するSD活動 (事務処理能力・企画立案能力向上)	◎小町理事 五十嵐常任理事	◎総務・人事課	・部課長会議	計画的なSDが実施され、職員個々の事務処理能力が向上し、業務効率がアップしている。全体的に企画立案能力が向上し、業務改善・改革が進んでいる。	①規程整備・制度導入に順次着手 ②SD委員会による検討開始、具体案策定 ③大妻女子大とのSD連携協定締結	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	①②③効果検証、見直し	
		(2) 教職員の定員管理	a. 教職員の定員管理 b. 年齢構成の適正化による平均年齢の上昇抑制	◎五十嵐常任理事 菅原学長 小町理事	◎総務・人事課 ◎大学改革 推進課	・人事計画 検討会議	定年退職者の補充、新規採用にあたっては年齢構成を考慮し、計画的に採用されている。	①人事計画の推進	①人事計画の推進	①人事計画の推進	①人事計画の推進	①人事計画の推進	①人事計画の推進
4. 人事・評価制度、能力開発・研修制度	(2) 教職員の積極性を引き出す評価制度	a. 評価制度の見直し	◎小町理事 五十嵐常任理事 西畑常任理事	◎総務・人事課	・人事制度 検討委員会	現行の評価制度が見直され、良好な状態で機能している。	①評価基準の原案作成 ②評価規程の改正	③新評価制度で評価実施(評価者研修)	③検証、見直し	③検証、見直し	③検証、見直し	③検証、見直し	
		(3) 働き甲斐ある職場の実現	a. 給与制度改革	◎小町理事 五十嵐常任理事 西畑常任理事	◎総務・人事課	・人事制度 検討委員会	給与制度改革や各種の施策が効果を奏し、待遇改善が図られている。	①諸手当改正実施 ②中・高非常勤講師手当改正					
			b. 福利厚生充実 c. 報奨制度の検討				教職員のモチベーションを高めるため、福利厚生の充実が図られている。 永年勤続表彰の他、新たな報奨制度を実施する。	①前年度施策の継続実施・見直し ②その他福利厚生検討 ①新報奨制度継続実施	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討	①継続実施・見直し ②その他福利厚生検討
5. 組織・権限	(1) ガバナンスの強化	a. 理事会機能の強化	◎五十嵐常任理事 菅原学長 西畑常任理事	◎総務・人事課	・理事会	理事会は、学内外情勢を把握し、学内の意見を反映し、担当理事制が十分に機能。長期ビジョン達成に向けた確かな決定を行い、理事会意思を学内へ示す経営体制になっている。	①各担当理事の機能を強化・充実 ②効果的な会議体の運営検証	①各担当理事の機能を強化・充実	①各担当理事の機能を強化・充実	①各担当理事の機能を強化・充実	①各担当理事の機能を強化・充実	①各担当理事の機能を強化・充実	
		b. 教学ガバナンスの強化	◎菅原学長 五十嵐常任理事	◎総務・人事課 ◎大学改革 推進課		理事会機能強化のため、学長をトップとする教学関係理事が担当分野について、十分に理事機能を発揮している。							

N'2020Plan の 課題			全学アクションプラン(H31年度まで)										
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画						
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
5. 組織・権限	(2) 意思決定の 迅速化	a. 意思決定の迅速化	◎五十嵐常任理事 菅原学長 高野副学長 磯副学長 小町理事	◎総務・人事課	・全学政策会議	権限と責任の委譲が適正に行われており、意思決定の迅速化が図られている。	①全学政策会議の規程 制定						
		b. 権限の明確化	◎菅原学長 高野副学長 磯副学長	◎大学改革 推進課	・大学審議会 ・部局長会議 ・教授会	平成27年4月1日施行の「学校教育法の一部改正」に伴った学内規程が運用され、学長のガバナンスが適正に実施されている。各会議体の役割分担、学内会議の整理統合が行われ、意思決定の迅速化が図られている。	①新体制での運用開始 ②関連規程・内規等の 改正・整備 ③各種会議体の変更後 の効果検証						
		c. 大学事務組織の一元化	◎小町理事	◎総務・人事課		事務組織が再編され、教育研究支援に有効に機能している。	①学生支援センターにつ いての検討						
		d. 業務の抜本的見直し	◎小町理事	◎総務・人事課	・部課長会議	業務を分析・整理したマニュアルに基づき、効率的に業務処理が行われている。	①各部署の業務マニ ュアル作成・整備	①マニュアルの点検 ②効率的な組織の構築に 反映 ③適正な人員配置に反映	①②③継続実施、見直し	①②③継続実施、見直し	①②③継続実施、見直し		
6. 広報	(1) 戦略的広報 体制の確立 ・展開	a. 本学のブランド構築・向上、認知度向上	◎小町理事 五十嵐常任理事			時代に即した適切な広報が展開され、ブランド・イメージ、認知度が向上している。	①140周年広報計画の 企画・立案	①140周年広報の開始	①140周年広報の展開 ②広報の適切性、認知度 向上について検証し、 戦略的・効果的な広報 を検討・実施	②広報の適切性、認知度 向上について検証し、 戦略的・効果的な広報 を検討・実施	②広報の適切性、認知度 向上について検証し、 戦略的・効果的な広報 を検討・実施		
		b. 学内情報の集約化体制整備	◎小町理事 五十嵐常任理事			学内情報が速やかに広報担当部署に集まる体制が整っている。	①学内情報集約化体制 下での情報集約開始	①継続実施・見直し	①継続実施・見直し	①継続実施・見直し	①継続実施・見直し		
		c. 学内情報の学外への効果的な発信	◎小町理事 五十嵐常任理事	◎広報課	・広報運営 委員会	法人・大学・附属校による、学校法人として統一感のある広報活動が展開されている。	①統一感のある広報展開 ②Facebook のオフィ シャルページによる情報 発信の実施 ③学生を活用した広報 の実施						
		d. 広報運営委員会の在り方等再検討	◎小町理事			新たな広報戦略会議による、戦略的、効果的な広報が展開されている。	①新たな広報戦略会議 による戦略的、効果的 な広報活動の検討・ 実施						
	(2) 情報公開	a. 経営情報・教育情報の積極的公開	◎小町理事 西畑常任理事			HPの「情報公開」ページを通じた情報提供を積極的に行う。外部理事・評議員等を構成員としたモニター制度を整備し、提言をHPの改訂に生かす。	①モニター制度の調査 対象者の抽出、質問 項目の作成、調査実施	①モニター制度実施、 調査結果の公開方法 検討、実施	①モニター制度実施、 調査結果の公開方法 検討、実施	①モニター制度実施、 調査結果の公開方法 検討、実施	①モニター制度実施、 調査結果の公開方法 検討、実施		
	(3) 大学の学生 募集対策 広報	a. 戦略的な学生募集対策広報の実施	◎西畑常任理事 小町理事	◎広報課 ◎入試課	・学生募集広報 戦略検討会議	広報課と入試課が連携し、戦略的な学生募集対策広報を行い、大学の学生募集力が向上している。	①受験生向けサイトの開 設・公開 ②女子学生向け広報の 検討、実施	①②前年度施策の効果 検証、改善実施 ③新学科の広報戦略 検討、実施	①②③効果検証、改善	①②③効果検証、改善	①②③効果検証、改善		
	7. その他	(1) 外部評価 機関の活用	a. R&Iの格付取得の継続、格付結果の教育・経営への活用	◎西畑常任理事	◎企画・財務課	・全学政策会議	財務体質の改善、規模拡大等を通じて格付評価を「A」に向上させる。 H30年度 格付評価:「A」(ポジティブ)	①効果測定、格付け見 直し実施	①効果測定、格付け見 直し実施	①効果測定、格付け見 直し実施	①効果測定、格付け見 直し実施	①効果測定、格付け見 直し実施	
b. 大学基準協会、その他認証評価結果の活用			◎高野副学長	◎大学改革 推進課	・部局長会議 ・自己点検評価 運営委員会	認証評価結果を活用して教育研究体制の改善がなされている。	①認証評価での課題改善 ②報告書の提出	①認証評価での課題改善 ②改善報告書の取り纏め	①認証評価での課題改善 ②改善報告書提出 ③第3期認証評価への 対応	①認証評価での課題改善	①認証評価での課題改善	①認証評価での課題改善	
(2) 施設の適切 な管理		a. 校舎等の長寿命化、長期修繕計画の策定	◎西畑常任理事 小町理事	◎総務・人事課 企画・財務課	・キャンパス 整備委員会	各校舎の長期修繕計画が策定され、それに基づいた修繕が行われ良好に管理されている。	①現況調査の継続実施 ②長期修繕計画による 修繕実施	①②継続実施	①②継続実施	①②継続実施	①②継続実施		
(3) 危機管理と 防災対策		a. 危機管理と防災対策	◎小町理事	◎総務・人事課	・防災対策会議	大震災等に対する防災対策が整備され、教職員・学生・生徒にとって安全な教育環境が整備されている。	①危機管理対策の強化	①検証・見直し	①検証・見直し	①検証・見直し	①検証・見直し		
(4) 学校法人 全体の規模 拡大	a. 系列校等の拡充 b. 小学校の設置検討 c. 他の高等学校等との連携	◎五十嵐常任理事 西畑常任理事 野口理事	◎大学改革 推進課 企画・財務課		新学部・学科の結論等を見ながら、設置の是非について適宜検討								